

# 「石狩湾系ニシン」平成 27 年度（2015 年度）漁期のまとめ

平成 28 年 5 月 2 日

北海道立総合研究機構中央水産試験場 資源管理部

昨秋から今冬にかけて漁獲対象となった、「石狩湾系ニシン」産卵来遊群の漁獲状況や資源状態について、漁期中の調査結果に基づき次のとおりまとめました。

## 1. 漁獲状況について（図 1） ※2015 年度漁獲量は道庁発表速報値と水試独自集計に基づく暫定値。

昨秋から 4 月末まで（2015 年度漁期）の石狩湾系ニシンの漁獲量は 2,080 トン（2014 年度比 134%）となりました。石狩市～小樽市・余市町の沿岸域では 2014 年度を大きく上まわり、とくに石狩市沿岸では 1,500 トンを超え過去最高の漁獲量となりました。留萌・宗谷沿岸では今期の漁獲もわずかとなりました。沖底，えびこぎ，沖刺し網による沖合域深みでの混獲についても 2009 年度以降の減少傾向が続きました。

## 2. 魚体について（図 2， 3）

漁獲物の年齢組成（尾数）は 4 年魚（3 歳；2012 年級）が全体の 51%と最も多く、次いで 5 年魚（4 歳；2011 年級）の漁獲が多くなりました。全体的には昨年度から若返りが進んだものの、昨年までの漁獲を支えた 2009 年級が、漁獲尾数は昨年度に比べ大きく減ったものの、今期も 7 年魚として、漁期前半に 6 年魚や 8 年魚以上とともに大型来遊群を構成しました。そのため今期の漁獲物の平均体重は 305g と、近年の大型化傾向が続きました。

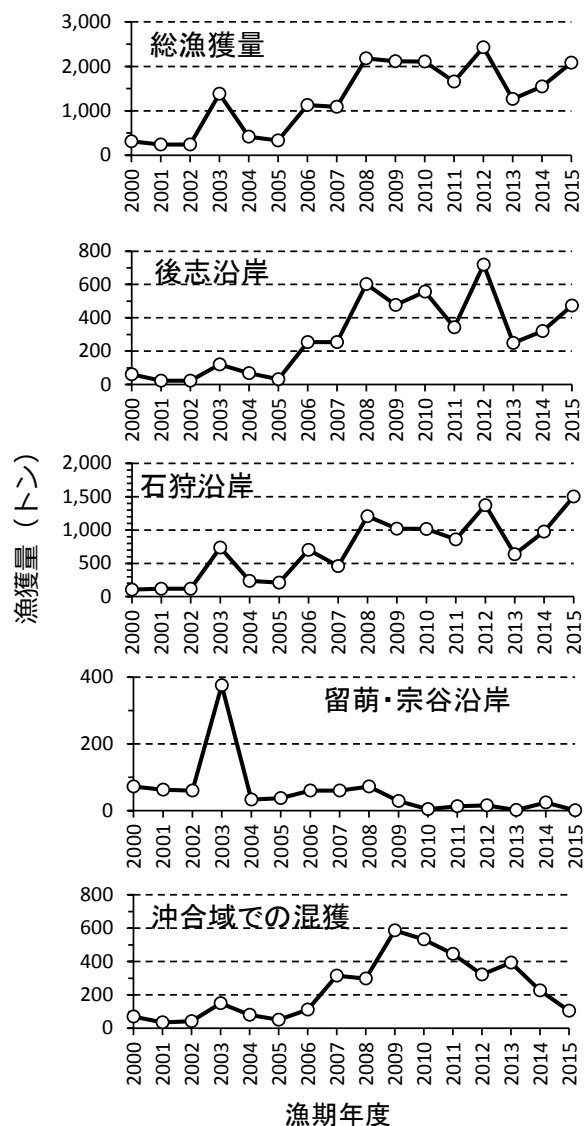


図 1 漁獲量の推移

漁期年度：5/1～翌 4/30。実質的には 10～3 月の漁獲量が大半をしめる

### 3. 漁期について（図4）

今期は1月中旬までほとんど来遊がありませんでしたが、1月25日頃から小樽，そして石狩地区方面で大型・高齢群の来遊が始まり一気に活況を呈してきました。厚田方面では1月末になってから漁獲が増えてきました。2月に入ると今期最も資源量が多いと推定された2012年級の来遊が本格化し、後記のとおり大型魚の産卵がなかなか進まなかったことと相俟って、新港～厚田周辺では例年になく濃密な分布となり盛漁期を迎えました。2月末～3月にかけては近年の傾向と同様に薄漁となりましたが、若齢魚主体でそれなりの漁獲が続きました。3月に入ると石狩方面では2年魚（2014年級）が2.0寸目に掛かるようになってきた（速報11号参照）こともあり、石狩市沿岸では漁業者の話し合いがもたれ、漁期を1週間残した3月18日をもって資源保護のため自主的に終漁となりました。

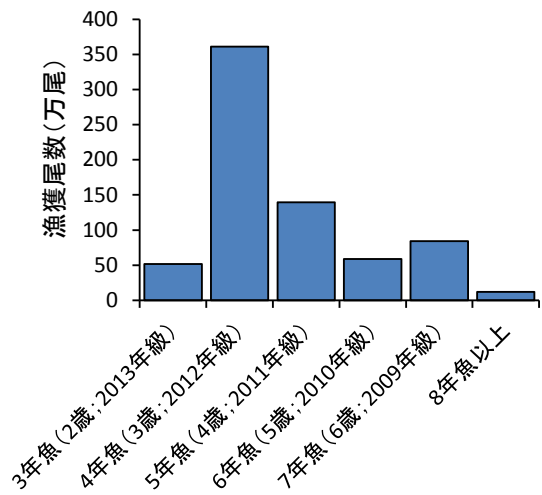


図2 2015年度漁獲物の年齢組成

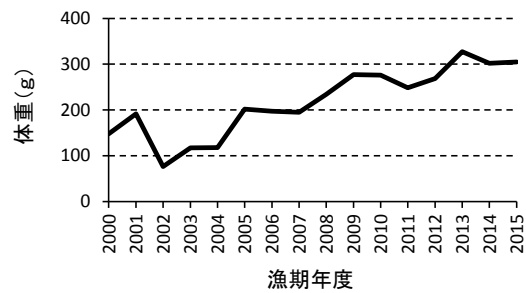


図3 漁獲物の平均体重の推移

### 4. 漁海況について

昨年度は1月10日の解禁当初から順調に漁があったのに対し、今期は1月中旬までは沿岸での漁獲がほとんどなく、1月下旬になってようやく本格化しました。漁獲開始の遅れについては、今のところ一昨年度と同様に沖合100m水深付近に高い水温帯が残り、湾沖の深みに達したニシンが湾内沿岸域に上がりにくく、さらに産卵場付近の底水温が例年より低めに推移した（図5）ことで、沿岸漁場に魚が寄らない状況があったものと考えています。

1月下旬に小樽方面から来遊し石狩新港周辺にかけ好漁となって以降も、厚田方面には分布が広がっていませんでしたが、2月に入ると新港～厚田方面へと分布の中心が移っていきました。しかし、湾沿岸の産卵場水温は全体的にみると4℃に満たない低水温で推移し、海況も不安定（断続的な小さいシケ）であったことから、例年なら1月末には産卵を終える大型・高齢群の産卵がなかなか進まず、結果的に新

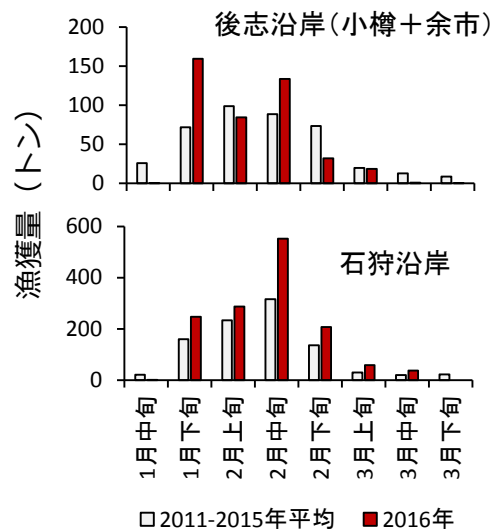


図4 石狩湾沿岸における時期別漁獲量

港～厚田方面では2月半ばまで大型・高齢群が大漁となりました。この間、小樽方面では4年魚（2012年級）の来遊が本格化していき、それが大型・高齢群が去った後の2月中下旬の漁獲を支えたことで、全体の漁獲量は大きくのびた状況となっています。

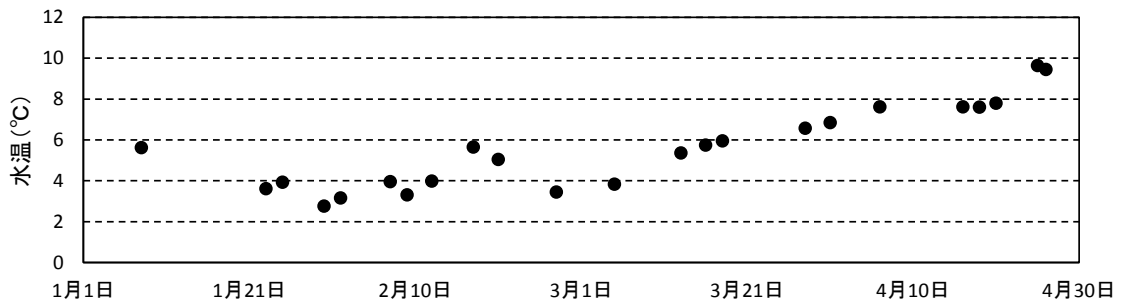


図5 小樽市船浜～銭函付近の水深3m付近の水温推移（STDによる観測）

## 5. 資源状態について

今漁期の漁獲量は前年度比で134%となりました。一方、上記のとおり、例年なら4年魚狙いになる2月半ばまで6年魚以上の大型・高齢群狙いの漁獲が続いたことで、高齢群に対しては漁獲圧の増加、4年魚に対しては漁獲圧の減少があった可能性等を考慮すると、漁獲の大半をしめる4年魚以上の資源重量としては、漁獲量の増加率ほどののびはなく、昨年度と同程度かやや上回る程度ではないかと推察されます。

一方、3年魚（2013年級）については今期も終盤の漁を盛り上げるような寄与はありませんでしたが、石狩湾漁協青年部が3月下旬に実施した1.6～1.8寸目の試験調査では2年魚（2014年級）と合わせ大漁となり、現行2.0寸目以上では魚体が小さいため漁獲対象となりにくかったものの、今期も来遊は確実にあり産卵が行われた模様です。ただし、今期の4年魚すなわち2012年級が昨年度3年魚の時と比べると、今のところ豊度は小さいとみています。

## 6. 来期の見通しについて

来期も序盤には大型群が漁獲されるものの、今期以上に2012年級が（5年魚として）漁獲の中心になるのではないかと考えられます。後続の4年魚、3年魚の豊度が少ない場合には、2月初旬で漁が切れる懸念もありますが、10月に実施する稚内水試調査船「北洋丸」による留萌沖合の索餌海域におけるトロール調査の情報が得られるまでは詳しくは判りません。今期も例年どおり実施する予定ですので、その他調査も含めましてのご配慮、情報提供など、引き続きご協力よろしくお願いたします。

—ご連絡先—

中央水試 資源管理部 資源管理グループ

研究主幹 星野 昇

Tel. 0135-23-8707